

【さんすう】

いっしゅうかんのあいだ、すこしずつやってみよう。

<べんきょうすること>

◆「いくつかな」（きょうかしょ 14 ページ～17 ページ）

(1) 6（ろく）、7（しち）、8（はち）、9（く）、10（じゅう）のかずをこえをだしてよんでみよう。

(2) すうじとおなじかずだけ、14 ページと 15 ページの ○のなかにいろをぬろう。

(3) えのなかに 8 このものはあるかな。まるでかこんでみよう。



えのなかに 8 こあるものは、1 しゆるいだけじゃないよ。

(4) えのなかで 10 こあるものを、まるでかこんでみよう。

むすんでいるものとつかっているものがあるよ。



(5) 16 ページにある 6、7、8、9、10 のすうじをかくれんしゅうをしよう。

6

7

8

9

10



すうじは、ていねいになぞって、れんしゅうしてから、かこう。

(6) 6、7、8、9、10 のすうじとおなじかずのブロックをつくえのうえにならべてみよう。

かぞえるときは、こえにだしてみるといいよ。



＜保護者による関わり方のポイント＞※可能な範囲でお願いします。

◆「いくつか」(教科書 P14～16)

- ・子どもが数字の練習を行うとき、「8」や「9」はうまく書けないことがあります。そのようなときは、丁寧になぞっているときをほめ、矢印の向きに書き進むことを伝えてあげることが大切です。
- ・時間に余裕がある場合は、家族の方が数字を見せ、子どもがその数をブロックで表すという活動に取り組み、一緒に遊ぶことを通して数の感覚を磨くことができます。

例（家族）…「7」を見せる。→（子ども）ブロックを並べる「できたよ！」

（家族）→「本当に合っているかな？一緒に数えてみよう」